

児島に「デニムの宿」

倉敷市児島地区でデニム製品の関連事業を営む兄弟が、瀬戸内海沿いの旧保養所（同市児島唐琴町）を宿泊施設に改装してオープンした。デニム生地を随所に使った客室やシーンズのシヨールームなどを備え、地場産業の魅力のアピール。インターネットで寄付を募る山陽新聞社などの「クラウドファンディング」（CF）を活用し、開業資金を集めた。（浪速祐彦）

CF活用しオープン

国道430号沿い、造平屋を賃借して改装。宿泊料金（1人）は個室4室で、個室とドミトリ（相部屋）が2室ずつあり、各4人まで宿泊できる。室内は藍色を基調とし、ふすまや畳縁にデニム生地を使うなど、シーンズ産地の「児島色」を強調している。

晴れ！コレ！岡山

宿泊料金（1人）は個室6千円、ドミトリ4千円。施設内にはシヨールームを備え、シーンズやデニムシャツといった商品を置いている。宿泊客以外にも利用できるカフェも設け、チキ



デニムをコンセプトにした宿泊施設の客室

エブリデニムの商品を取り扱うシヨールーム



藍色基調の客室 ショールームも用意

ンカレーやコーヒー、アルコール類などを提供。施設名は「デニムホステル フロート」で、瀬戸内海に浮かぶ島々や、遊んで「浮かれ気分」になってほしいといった思いを込めた。

開設したのは、シーンズを47都道府県で移動販売するなどの活動を行う「エブリデニム（同所）。共同代表を務める山脇耀平さん（26）と、弟の島田舜介さん（24）が、地域おこし協力隊の池上慶行さん（26）と協力して準備を進めてきた。

事業は、山陽新聞社や中国銀行などが連携したCFサービス「晴れ！フレイ岡山」の第1号プロジェクト。8月上旬から9月中旬に支援金を募り、目標額1千万円に

対して、約600人から約1100万円を集めた。エブリデニムは「CFを活用することで、資金と同時にファンを集めることができた。美しい景色とともに、デニムの良さを伝えられるような場所にしたい」としている。

共同代表・島田さんに聞く



デニムホステルについて話す島田さん

「デニムをコンセプトにした宿泊施設をオープンしたエブリデニム。共同代表の一人・島田舜介さんに経緯や展望を聞いた。

「開業した狙いは、

「昨年4月から今年7月にかけて47都道府県を旅して現地の人々と交流したので、今度は迎える側になりました。拠点の場所は東京や岡山市なども考えたが、シーンズ産地に作ろうと児島にした。瀬戸内のきれいな景色が楽しめるのも決め手になった」

「資金確保にCFを活用した。

「一つはシンプルに改装費を募りたかった。もう一つは個人個人からお金を集める形をとることで『ハコ』をつくる仲間

ができた。デニムホステル

瀬戸内の景色が決め手

「事前予約やデニム製品の注文といった返礼を用意し、ファンを募った」

「目標額を上回る結果になった。

「奇跡的だ。序盤は金額が伸びず不安だったが、期間中に東京の百貨店でエブリデニムをアピールする機会があり、持ち直せた。関係者らがSNS（会員制交流サイト）で盛り上げてくれたこともあり、最後の3日間で一気に伸びた」

「どのような場所にしたか。

「瀬戸内国際芸術祭など観光客に泊まってもらうのはもちろん、デニムについて知ることができるといい場所にしていく。シーンズ関連の生産現場を見学するプランも考えていきたい」

（浪速祐彦）